# 令和５年度　学校評価報告書（目標設定）

| | 視点 | ４年間の目標<br>（令和２年度策定） | １年間の目標 | 取組の内容 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 具体的な方策 | 評価の観点 |
| 1 | 教育課程<br>学習指導 | ①生徒の海洋科学に対する意欲や探究心を高める教育課程編成や組織的な授業改善に取り組む。 | ①・生徒の「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、探究的な学習や体験的な学びの充実を図るとともに、授業見学、研究授業、校内研究の充実と教員の情報活用能力の育成を図る。<br>・新教育課程の確実な実施に向けた教育内容や指導体制の改善・充実を図る。 | ①単元をベースにした指導方法や評価の在り方について、研修会や研究授業を通して職員の意識を向上させる。<br>・ICT を活用した指導を推進し、対話的な学びを充実させる。<br>・３観点別評価について成績シートやチェックシートを整備するとともに職員間で運用ができるようにする。 | ①１・２学年生徒の授業評価において、「授業で身についたりできるようになったことを実感できた。」における肯定的な回答が 90%以上となったか。<br>・新教育課程について滞りなく指導する体制ができたか。 |
| | | ②授業や学校行事等を充実させ、生徒の主体的な行動の促進を図る。 | ②水産各分野における地域と連携した研究活動や実習等をとおして、生徒の主体的な活動の推進を図る。 | ②海洋科学プロジェクトを本校の教育活動の中心とするため、職員の意識向上とともに、各段階での教育活動を充実させる | ②マリンマイスターの基礎資格となる「水産海洋技術検定」における合格者が増加したか。 |
| 2 | 生徒指導<br>・支援 | ①生徒一人ひとりの個に応じた支援体制の充実を図る。 | ①必要な生徒に対して、個々に応じた支援が適切にできるよう教育相談体制を充実させ SC や SSW、外部機関との連携を推進する。<br>・生徒のコミュニケーション能力の向上を目指した取組みを充実させる。 | ①生徒支援グループと年次・学年の協力体制のもと、支援が必要な生徒に対して SC・SSW や外部機関、ケース会議を活用するなどして適切な支援を行う。<br>・生徒指導の際、コミュニケーションを円滑にはかれるよう指導し、円滑な学校生活を送れるよう支援する。 | ①生徒支援グループと年次が連携して、生徒を指導することができたか。また、SC・SSW や外部機関と連携して、生徒を支援することができたか。<br>・生徒間および生徒教員間で円滑にコミュニケーションが取れるようになったか。 |
| | | ②部活動の活性化と生徒の主体的な取り組みの充実を図る。 | ②・部活動加入率・参加率の向上と水産クラブの充実を図る。<br>・文化祭や体育的行事等の充実を図るとともに、生徒の主体的な関わりを促進させる。 | ②活動が活性化するように、顧問から積極的な加入・参加を働きかけるとともに、部活動見学や仮入部期間などを見直し、入部しやすい環境を整える。 | ②部活動加入率が前年度を超えたか。また、活動日数が増加したか。 |
| 3 | 進路指導<br>・支援 | ・生徒が自らのキャリア発達を意識できる進路指導の充実を図る。 | ①海洋科学プロジェクトによる3年間を見通した進路指導体制の確立を図る。 | ①LHR を活用した進路ガイダンス企画を計画に沿って実施する。 | ①計画に沿って実施できたか。実施後生徒にアンケートを取り効果を検証する。 |

| | 視点 | ４年間の目標<br>（令和２年度策定） | １年間の目標 | 取組の内容 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 具体的な方策 | 評価の観点 |
| | | | ②全ての専門系列及び学科においてインターンシップや職場見学会などの参加率を向上させ、生徒の適切な勤労観、職業観を育成する。 | ②各学科に対して、早い段階でのインターンシップの企画立案と生徒への周知を依頼する。 | ②各専門系列や学科でインターンシップや職場見学会が計画され、全系列から参加することができたか。 |
| ４ | 地域等との協働 | ①教職員一人ひとりが創意工夫し学校の魅力を開発・発信し、海洋学習センター機能を充実・発展させる。<br><br>②地域との協働を推進し、地域に信頼される学校づくりを進める。 | ①・海洋学習センター機能の充実･発展を図り、本校の教育資源を活用した取り組みを推進する。<br>・学校ホームページを充実させ本校教育活動を積極的に発信する。<br><br>②地域との協働を推進させるため、産・官・学の連携事業を充実・発展させ、地域から信頼され、必要とされる学校づくりを推進する。 | ①学校の人的・物的資源を活用し、小・中学生や社会人を対象とした出前授業・公開講座を計画する。<br>・新４科それぞれが入学試験での倍率が上昇するようホームページに情報を発信する。<br><br>②三浦真珠プロジェクトや「ヨコスカ×スマートモビリティ・チャレンジ」等、産・官・学との連携事業を充実させ、県内外に知られる学校づくりを推進する。 | ①出前授業・公開講座等が開催できたか。<br><br>・中学生が興味を持つような情報を、新４科がホームページで発信できたか。<br><br>②生徒や職員が産・官・学との連携事業に参加し、その取り組みを発信することができたか。 |
| ５ | 学校管理<br>学校運営 | ①全ての教職員が教育環境の変化に迅速に対応し、前向きに課題に取り組む学校文化を形成する。<br><br>②教職員の働き方改革を推進するための意識改革を図る。 | ①学科運営のあり方等、新校の完成年度も視野に入れた諸課題の解決に全教職員で取り組む。<br><br>②業務の精選や業務分担の適正化をとおして、教職員の働き方に対する意識の向上を図る。 | ①海洋科学プロジェクトの内容を全職員が一丸となって取組む。<br><br>②業務の見直しと職員の役割分担の適正化をすすめ、ノー残業デーを導入することで職員の働き方に関する意識改革を図る。 | ①海洋科学プロジェクトに基づいた実践ができたか。<br><br>②ノー残業デーの実施により、時間外勤務の削減ができたか。 |